

# 雑誌新聞発行部数事典

—昭和戦前期 附. 発禁本部数総覧【増補改訂普及版】

[き]

紀和民報・三重／新聞 1927年11月現在 950部・内務省調査  
 金1巻5号・新報 1937年9月1日 3,000部・風 1937年9月5日  
 銀河2月号・出報 1938年2月1日 1,000部・風 1938年3月24日  
 錦旗・東京／雑誌 1935年4月現在 4,000～6,000部・内務省調査  
 錦旗8月号・出報 1934年8月25日 5,000部・無 1934年8月24日  
 錦旗3巻10号・新法 1934年11月1日 6,000部・無 1934年11月16日  
 近畿飲食料新聞・京都／新聞 1927年11月現在 4,600部・内務省調査  
 錦旗公論・東京／雑誌 1935年4月現在 2,000～2,500部・内務省調査  
 錦旗公論3巻1号・新法 1935年1月15日 1,900部・安 1935年1月16日  
 錦旗公論3月号・新報 1938年3月10日 1,970部・安 1938年3月16日  
 錦旗公論7巻10号・新報 1939年10月20日 500部・安 1939年10月24日  
 錦旗公論12月号・新聞 1939年12月10日 35部・安 1939年12月12日  
 錦旗公論特輯・新聞 1940年5月10日 100部・安 1940年5月11日  
 錦旗公論9巻3号・新報 1941年3月20日 400部・安 1941年3月24日  
 錦旗公論9巻6号・新報 1941年6月10日 500部・安 1941年6月14日  
 錦旗公論9号特報・新聞 1941年10月10日 300部・安 1941年10月13日  
 錦旗国民軍・東京／新聞 1935年4月現在 15,000部・内務省調査  
 錦旗国民軍64号・新法 1934年5月14日 13,000部・無 1934年5月18日  
 錦旗国民軍71号・新法 1935年1月15日 15部・安 1935年1月12日  
 錦旗国民軍76号・新法 1935年8月25日 20,000部・安 1935年8月25日  
 錦旗国民軍81号・新聞 1936年4月15日 1,000部・安 1936年4月16日  
 近畿酒類醤油新聞・京都／新聞 1927年11月現在 2,500部・内務省調査  
 近畿新聞・大阪／新法 1927年11月現在 1,200部・内務省調査  
 近畿日日新聞・京都／新聞 1935年4月現在 1,500部・内務省調査  
 近畿評論・京都／雑誌 1927年11月現在 5,200部・内務省調査  
 錦業時報6巻5号・新報 1938年5月10日 2,300部・安 1938年5月19日  
 キング・東京／雑誌 1927年11月現在 300,000部・内務省調査  
 キングタイムス・香川／新聞 1927年11月現在 2,000部・内務省調査

106

「第一部 雑誌・新聞編」より

特徴……

**発** 禁本の現物を、各府県警察がどの程度差押さえたかの割合を記載する「差押成績表」をもとに発行部数を抽出、タイトル・分類などから検索できるようにしたものが本書である。

**単** 行本は昭和3年から、新聞・雑誌は昭和2年から最後は昭和17年までの数値が掲載されており、その間に差押えされた単行本の特定巻、あるいは新聞・雑誌の特定号の部数が本書でわかる。その多くは発禁本だが、部分削除処分を受けた本も混ざっている。

当初でこそ「軟派本」や「左翼本」が多いが、時代が下るに従って左翼運動の壊滅や検閲の強化等のため一般書や新聞・雑誌が増えており、ひろく部数を調べるのに役立つ。

**本** 書掲載タイトルには新聞、通信、新聞雑誌、出版雑誌、宣伝印刷物といった資料種別を明示。「差押成績表」に処分理由の種別（安寧秩序、紊乱風俗壊乱、陸軍省令、海軍省令、国家総動員法）がある時は書誌データの一環として記載。発行日付のほか禁止・処分日付も採録する。

**元** 版(2011年)に採録した部数データは、内務省の命令で、警察が実際に印刷・出版現場へ乗り込んで行った発禁本、発禁号の部数調査が元になっている。

**今** 回増補した調査部数には、比較的メジャーな雑誌・新聞が多数あり、発禁処分にあわない穏当な、つまり「面白くて為になる」大衆雑誌『キング』などが収録された。これにより本書の利用範囲はさらに広がると確信している。

レファレンス・ライブラリアンの日常業務の必要性から読みの視点を変えて編み出された新レファレンス・ツール。

図書館の資料相談カウンターでは、昔の新聞・雑誌がいったい何部刷られていたのか、何部発行されていたのかという質問がよくある。その著作はどれほど普及したのか、どれくらい影響力があったのかといったことを部数の多寡から推し量りたいのだろう。

文学研究に限らず、メディア史研究はもちろん各学問の学説史研究でも、関係著作の部数情報は役に立つ。学術に限らず純粋な好奇心から部数を知りたいということも、あるだろう。本書により、わからないとされてきた戦前期出版物の発行部数を知ることができる。

近代日本  
出版史  
一般の便覧

東日本大震災の年に本書初版は上梓されたが、それから9年。

何が変わったかといえば、まず私自身が出版史の専門家と見なされるようになった。もともと図書館史を専門としており(図書館のリスク管理論もやっていたが、震災で流行ったので休止)、自分でも意外だった。けれど、こういったことはレファレンス司書にままするようで、誰も研究していないトピックがあることに最初に気付くのは、利用者の質問にある種、振り回され、それでもまじめに対応する図書館員ではなかろうか。レベルは異なるが、小選挙区改革の成田憲彦(1946-)、竹島問題の塚本孝(1952-)などが、退職後、大学に呼ばれる専門家になったのは、専門家が(取り組んで)いないトピックに、図書館持ち前の汎用参照スキルで肉薄できたからだろう。

それに気づいた時、レファレンス・サービスという事業コンセプトの全体像が見えてきた。2018年に母校の非常勤に呼ばれたのはこのためだ。図書館史研究も、『公共図書館の冒険』(みすず書房、2018)で図書館にどんなジャンルの本が〈無かった〉のかを書く、という最難関章を引き受けたことで読書史研究へ広がっていった。〔小林昌樹「あとがき」より抄録〕

## 編集・解説者紹介

小林 昌樹 (こばやし まさき)

1967年、東京生まれ。  
1992年慶応大学文学部卒業後、国立国会図書館司書。

# 雑誌新聞発行部数事典

—昭和戦前期 附. 発禁本部数総覧【増補改訂普及版】

## 本書の構成……

〈上巻〉

第一部：雑誌・新聞編「あ～た行」(タイトル五十音順・ABC)

〈下巻〉

第一部：雑誌・新聞編「な行～英数アルファベット」(同)

第二部 単行本編

(NDC二桁(一部三桁)順>刊行年順)

第三部 宣伝印刷物編(刊行年月順)

単行本タイトル索引

解説「戦前における発行部数調査の歴史【増補改訂普及版】」

## 増補にあたり……

・『新聞雑誌及通信社二関スル調』(内務省警保局 1927年)

・『全国主要新聞紙雑誌調』(警保局図書課、1935年)

・『全国思想関係新聞紙雑誌調』(警保局図書課、1935年)

のデータを加えた。

【全2巻】 総662頁

造 本—A5判・並製

刊行時期—2020年10月

揃 価—22,000円 ISBN978-4-910363-03-5

品切れ中だった元版(2011年)を、大幅に増補改訂し、  
価格をさらにお求めやすくいたしました

Kanazawa Bumpokaku  
金沢文圃閣

〒920-0867 金沢市長土堀2-16-30

Tel 076-261-8884 Fax 233-3111

メールご注文OK 送料サービス

□書店様へ…ありがとうございます  
直接小閣までお申し込みください

図版はすべて本書より  
価格は税別 051/10/4000

## 1. はじめに

(1) 部数へのニーズ

(2) この事典について

## 2. 調査の歴史・公表の歴史

(1) 明治前半の部数届出

(2) 明治末から昭和前期の秘密調査

(3) 広告主のための部数調査の試み

a. 日本電報通信社による先駆

b. 万年社の近代化運動

c. 新聞研究所の追隨

d. 興信所による独自調査：入と出を外から量る\*

(4) まとめ

## 3. 依拠した資料とそのデータについて

(1) 『出版警察報』について

(2) 「差押成績表」の掲載位置

(3) 「差押成績表」のデータ

(4) 数値の信頼度

(5) 昭和2年、10年の調査部数\*

(6) 昭和8年の調査部数(未採録)\*

## 4. 本書の活用法

(1) 本書から「成績表」や『発禁年表』への参照法

(2) 「成績表」の誤記

(3) 大新聞の部数

(4) 単行本の部数

(5) 「通信」について

(6) その他の出版物

## 5. 発行部数が掲載されているその他の資料

(1) 単行本の部数

(2) 雑誌・新聞の部数

(3) あとから作られた一覧表

## 6. 参考になる文献

## 7. 部数用語

(1) 印刷部数と発行部数

(2) 新聞の部数構成

(3) 単行本の部数構成

(4) 雑誌の部数構成

(5) 発行部数の同義語・類義語

## 8. 差押「成績表」の変遷

## 9. 【付論】出版物類型ごとの部数相場\*

\* 増補改訂普及版で足した項目

新聞はもちろん、雑誌・単行本・宣伝印刷物等  
出版物の発行部数を知ることができる

レファレンス・ツール。

